B23 ノシメマダラメイガ成虫による産卵と包装材料との関係
辻 英明 (環境生物研究会)

Oviposition by the Indian-meal moth on packaging materials
Hideakira Tsuji

小型ケージ (17 × 17 × 14 cm) 内の米ぬか容器のポリエチレンフィルム (厚さ 20 ミクロン) の蓋面に, ピンホールがなくてもノシメマダラメイガ成虫が産卵し, 大型ケージ (57 × 57 × 30 cm) 内でも同様だったが, ぬかの入っていない容器には産卵しなかった. ポリエチレンフィルムを4枚重ねた蓋面でも依然多くの産卵があった. 一方, ポリエチレンフィルムにアルミ箔 (厚さ 15 ミクロン) を重ねた場合や, ポリ塩化ビニリデンフィルム (厚さ 10.5 ミクロン) 単独の場合は産卵がほとんどなかったが, アルミ箔にピンホールがある場合は容器表面への産卵があった. これは, 米ぬかの成分がノシメマダラメイガを誘引し産卵させ, その成分はポリエチレンフィルムを通過するが, アルミ箔やポリ塩化ビニリデンフィルムは通過し難いことを示している.

B24 インドネシアの水田開発が家鼠類の分布に与える影響 (2)

矢部辰男[○] (神奈川衛研)・茂木幹義 (佐賀医大)・M. Selomo (ハサヌディン大)・N. B. Noor (ハサヌディン大)

Influence of the development of paddy fields on the distribution of commensal rats in Indonesia (2)

Yabe T., Mogi M., Selomo Makmur, and Noor Noel B.

雨期下の中央スラウェシと乾期下の西チモールにおける, 1998・1999 年 8 月の調査結果から, 水田と家屋との間におけるクマネズミの移動分散機構について考察した. 中央スラウェシでは水田 (稲は成熟期) で多数のクマネズミが捕れ, 齢構成は 1 カ月齢個体が 43% (6/14) を占め, 繁殖が盛んであることを示した. ところが西チモールではクマネズミは水田 (休耕中か田植期) に生息せず, もっぱら屋内かその周辺で捕れた (n = 49). かつ, 1 カ月齢個体はなく, 2~4 カ月齢中心 (全体の 63%) の高齢個体から成り立ち, 繁殖が不活発であることを示した. したがって, クマネズミは稲の成熟期に人家から水田地帯に分散して盛んに繁殖し, 収穫後に人家に戻ると推測される. 水田開発はクマネズミの繁殖を促し, 人家へのクマネズミの供給源を増やすであろう.